



WINPEC Working Paper Series No. J1606

March 2017

Working Paper Series

『外国語教育のシステム化と教室運営－英独仏中韓西露日の語学授業とクラス間連携－』

英語教育のシステム化と教室運営

中野美知子

現代政治経済研究所

(Waseda INstitute of Political EConomy)

早稲田大学

英語教育のシステム化と教室運営*

中野美知子**

全体概要

この章では、早稲田大学での教育実践、教室運営に関わる課題と克服方法、英語教育の社会的ネットワークの必要性、教育システム構築に向けて必要な事項について概説する。

1. 早稲田大学での教育実践

早稲田大学での英語教育改革とシステム化は1997年から開始した。まさに20世紀から21世紀への転換期にあった。Digital Campus Consortium (DCC)は日本のIT関連会社24社と早稲田大学との産学共同体で、21世紀に生きる学生たちにどのような教育を展開していくか、実験検証を開始しつつ、理念をかためていくことになった。早稲田方式3段階とよばれるようになったその理念と実践について概説する。

2. 教室運営に関わる課題と克服への努力

早稲田方式3段階の1段階目にある英語チュートリアルは、ほぼ全学の学生が必須科目として履修している。4名の受講生に対して1名のチューターが教示するもので、他に例がなかったため、レベル分けテスト、CEFRに基づいた教科書作成、教授法マニュアル、ウェブ教材、ICTを活用した成績管理法など幾多の課題を克服する必要があった。このセクションでは、その運営方法を紹介する。

3. 英語教育の社会的ネットワークの必要性

全学の英語教員のネットワーク、チューターのネットワーク、海外の協定校の教員とのネットワークが必要で、どのように実践してきたかを概説する。

4. 教育システム構築に向けて

教員の判断のばらつきを最小限に食い止めるため、ICTを活用してできる部分は自動化を試みた。コンピュータ適応型のクラス分けテストの開発、学習成果測定テストの開発、学習者へのフィードバック、教員へのフィードバックなど開発段階のものを含め、概要を述べたい。

キーワード：CEFR、異文化交流、テレビ会議(サーバー)交流、ICT、e-Learning

* 本篇はWorking Paper Series『外国語教育のシステム化と教室運営－英独仏中韓西露日の語学授業とクラス間連携－』の一篇である。

** 早稲田大学名誉教授、教務部参与、大学総合研究所招聘研究員

1. 早稲田大学での教育実践・研究

早稲田大学での英語教育改革とシステム化は 1997 年から開始した。まさに 20 世紀から 21 世紀への転換期にあった。白井克彦前総長は、日本では初めての産学共同の教育に特化したコンソーシアムを設立したのも同時期であった。Digital Campus Consortium (DCC) は日本の IT 関連会社 24 社と早稲田大学との産学共同体で、21 世紀に生きる学生たちにどのような教育を展開してくか、実験検証を開始しつつ、理念をかためていくことになった。ネットワーク社会が予測され、IT を活用しつつ、学生の IT リテラシーを高めながら、ネットワーク社会での大学ミッションは「地球市民の育成」で、地球市民の定義は Intellectually Active Individuals という漠然としているが、説得力のあるものであった。1999 年には次の図で示される早稲田大学 3 段階の教育概念図が規定された。

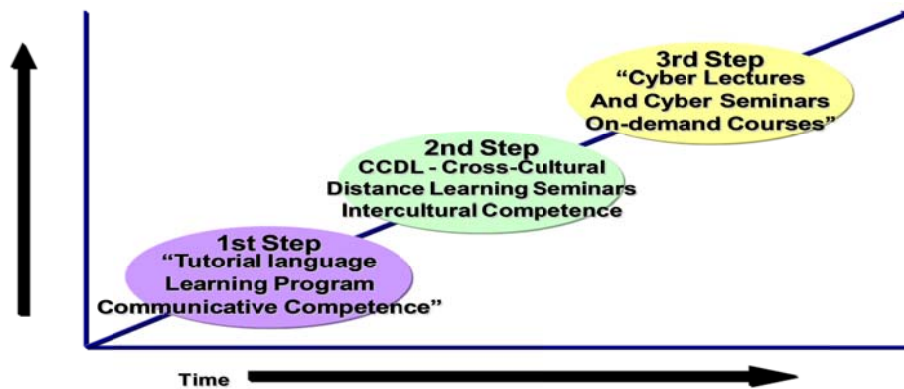


図 1 3 段階による早稲田メソッド

早稲田方式第 1 段階では、少人数教育によるチュートリアル形式の語学教育で、中国語、英語、ドイツ語のコースが開発された。英語教育の場合、Communicative Competence の向上を目指すもので、2001 年に European Council of Education が European Framework of Reference for Languages (CEFR) を発表して以来、2007 年度までに CEFR の Can-Do Descriptors に基づいた 6 レベルの教科書と教授法をまとめた Teaching manual を完成した。2001 年にオープン・教育センターが設置され、学部の壁を取り除き、全学の学生たちが、オープン科目を受講できるように体制が整っていった。英語チュートリアルは理工学部と文学部を除く全学部で必修科目となった。表 1 は 2002 年から 2013 年までの受講者数を示している。入門編と準上級コースは 2006 年より開始し、実践ビジネス・チュートリアル英語と Discussion チュートリアル英語は 2007 年度より開始した。

表 1 2002 年度から 2011 年度までの受講者数推移

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
上級	86	234	990	1075	534	621	866	832	918	877
準上級					2512	2098	2065	2007	2112	2142
中級	358	791	3137	3583	2007	1810	1935	1747	1588	1526
准中級					2038	1671	1675	1547	1303	1276
初級	523	1191	1887	2665	1704	1415	1265	1235	1161	963
入門			74	190	209	127	120	161	167	92
Business	981	2122	1615	1649	141	132				
実践ビジネス						404	404	410	349	367

早稲田方式第 2 段階では、海外の協定校の学生たちとテレビ会議システムやテキスト・チャット、オーラル・チャットで交流する授業である。共通教科書を使用した CCDL 異文化交流講座の他、各教員がテーマを決め、半期に 5 回程度の交流をする場合もある。1 対 1 対応、多地点交流など授業の目的に合わせて、交流が行われている。ここでは異文化間コミュニケーションを教育の主体においているが、早稲田方式では Cross-Cultural Competence の養成という場合が多い。

早稲田方式第 3 段階では、専門科目の交流で、多地点の交流が主となっている。担当教員はオン・デマンド講義を用意し、学生はオン・デマンド講義を家庭学習し、授業中は、他大学の学生たちと討論する形式がとられている。いわゆる反転学習で、早稲田大学では、2003 年から実施している。時差が少ないアジア圏の大学が複数参加し、「アジアの共生」2003--2006「東アジアでの FTA」2007-2010「World Englishes and Miscommunications」2005- などがその例である。その他、グローバル化に応じて、文科省の奨励金を得て、アジア圏以外にアメリカの大学との交流授業も行ってきた。Global Honor' s College2010 - 2012 (Columbia U., Harvard, MIT, Yale U., Washington U., Korea U, NUS, Beijin U), Global Leadership Programs, 2012-2016 (Columbia, Georgetown, U Penn, California (Barkley), Washington, Waseda)が特別コースとして設置された。表 2 が 2005 年から 2012 までの交流実績を参加人数としてまとめたものである。筆者は 2001 年度から 2016 年 3 月に退職するまで、オープン教育センター（現グローバル・エデュケーションセンター）の英語部門長を務め、2002 年から 2014 年まで遠隔教育センターの所長として、早稲田方式の大 1 段階から第 3 段階まで深くかかわってきた。最終稿では、学習教材の詳細と CEFR 対応実験について記述する予定である。

表 2 遠隔授業参加者数の推移

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
Joint class courses	34	45	67	83	102	85	72	79
No. of enrolled Waseda students	2,235	3,211	3,379	3,477	3,543	3,574	3,306	3,525
No. of overseas participants	1,181	2,094	3,058	3,882	4,422	4,254	3,894	3,974

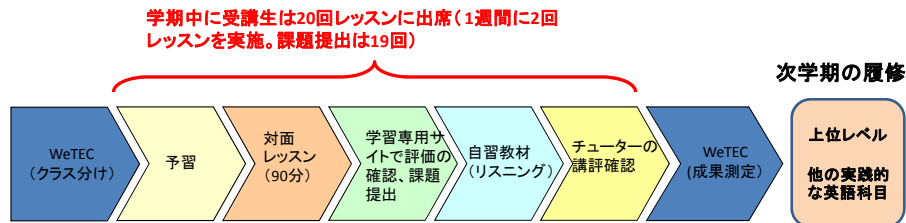
オープン教育センターでは、チュートリアル英語、CCDL 異文化交流講座の他に、Discussion Tutorial English, Critical Reading and Writing, Business Tutorial English, Writing Tutorials の開発に参加した。各科目はコース名が表すように、特化した技能を習得させるようになっている。各科目の関連性は、英語部門委員会で次のようにまとめられている。

	初級 (TOEIC 470 程度)	中級 (TOEIC 470~730 程度)	上級 (TOEIC 730 程度)
英語で専門科目を学ぶための準備科目			Academic Writing through the Internet
			English for Successful Presentations
		Writing Scientific Papers: Paragraphs and Abstracts (Chemistry)	
		Writing Scientific Papers: Paragraphs and Abstracts (Physics)	
	Academic Reading (初級)	Academic Reading (中級)	Academic Reading (上級)
	Academic Writing (初級)	Academic Writing (中級)	Academic Writing (上級)
	Academic Listening (初級)	Academic Listening (中級)	Academic Listening (上級)
英語を使いこなす科目			Cross-Cultural Distance Learning (CCDL)
			Cross-Cultural Distance Learning (CCDL)
			Cross-Cultural Distance Learning (CCDL)
		Critical Reading and Writing (中級)	Critical Reading and Writing (上級)
		Discussion Tutorial English (中級)	Discussion Tutorial English (上級)
英語を習得する科目			Advanced English Plus: Projects on Contemporary Topics
		Business Tutorial English (ビジネス実践編)	Business Tutorial English (ビジネス実践編) (上級)
		Tutorial English Training Camp	
	General Tutorial English (初級)	General Tutorial English (準中級)	General Tutorial English (中級)
		General Tutorial English (準上級)	General Tutorial English (上級)
	Listening, Reading & Writing through the Internet (初級)	Listening, Reading & Writing through the Internet (中級)	Listening, Reading & Writing through the Internet (上級)
	Foundations of English (初級)	Foundations of English (中級)	
	Writing Tutorial English		

図 2 オープン教育センターの英語科目の関連

2. 教室運営に関わる課題

一般的な受講の流れは次のようなシステムが 2007 年以降出来上がっている。



1 毎回の授業で、受講生は以下の英語運用能力を判定されている。Interview, Individual Long Turn, Group Work, Pair Work, Discussionをさせながら、各レッスンで示すCan-Do到達率を判定している。ちなみにこれらの英語運用課題はTOEICやCambridgeESOLで採用されているスピーキングテストの課題となっている。TOEICでは一回のテストで能力判定が行われるが、我々のアプローチの利点は、毎回の授業で繰り返し英語運用能力が判定されることである。
形成的評価

2 出席は14回以上が要求され、授業準備、授業中の課題への参加率、毎回のレポート提出、7課ごとの復習テストの点数、WeTECの事前・事後テストの得点で総合評価される。
扱っている話題が豊富で、教材のComplexityが保障されている。

1

図 3 受講の流れ

図 4 は英語チュートリアル受講の流れを扱っているが、これは、オープン教育センター設置科目で筆者が責任者であった科目は全てこの受講の流れを踏襲している。受講生は

1. WeTEC でレベル分けのテストを受講する。6 レベル中のどのレベルかが判定されると、不安を感じ、一段低いレベルを受講したいときや、もっと上級がよいという希望がある場合、チューターの採用、訓練などを任せている早稲田総研インターナショナル（現早稲田アカデミック・ソリューション）が個別対応をしている。

2. 受講生は予習をする。各ユニットには Preparation というセクションがあり、必ず、予習が義務づけられている。予習の度合いは点数化されていく。また、その他のユニットも予習をしないと、グループワークに参加できない。どれ位、グループワークに参加したかも点数化される。

3. 対面授業を受ける。English チュートリアルは 4 名、Discussion Tutorial English は 8 名、Critical Reading and Writing 6 名。授業後に受講生は 2 問の記述文からなる Reflection Tasks を書き、その日のうちに提出する。図 6 で示されるように、チューターは 3 日以内にコメントを送付する。毎回の対面授業の教育評価は、予習率、授業中のグループワークへの参加率、各ユニットで学習する 2 個の Can-Do のマスター率

は、毎回評定され、図 5 で示される Web site 上で、評点され、受講生に周知する。受講生はクレームをつけることもできるようになっている。

4. 7 課目は、それまでに学習した内容を Lesson Review Unit Test として、試験が実施される。20 回のレッスン中、3 回の復習テストを受けることになっている。

5 成果測定として、WeTEC を再度受験し、事前テストのスコアと事後テストのスコアが、学習成果となる。図 7 に示されるように、チューターは中間と受講後に 2 回各学生たちに講評を伝えることになっている。

Comment Information						
Date	2010-10-15	A day of the week and the time limit	Pre-1	Class 1st	2	出席
Attendance	✓ On time	15 min	30 min	45 min	over 45 min	Absent
Can-do function 1	8	✓ 6	4	2	0	
The student can describe characters.						
Can-do function 2	8	✓ 6	4	2	0	
The student can discuss compatibility.						
Participation	✓ 3	2	1	0		
Preparation		✓ 2	1	0		
Lesson Review Task	✓ 6	4	2	0		

ポイント評価

チューターは毎レッスン中、テキストの「*Speaking*」に該当する箇所について、学生の *CanDo* の目標に対しての到達状況を確認。

レッスン後に、レッスン総括コメントとともに、学習専用サイト「*Tutorial Site*」にて *CanDo* を 0~8 ポイントで評価
事前準備を 0~2 ポイントで評価
積極参加を 0~3 ポイントで評価

レッスン総括コメント

From Tutor: Bullock, Dustin 2010-10-15

Hello everyone,

I hope you all enjoyed today's lesson. We practiced talking about personalities and who we get along with. This unit had a lot of vocabulary. As you can see, vocabulary units can be quite tricky. I recommend writing down English examples of the words rather than Japanese. This will make it easier for you to use them in sentences.

Here are a few mistakes that I heard

X: "He is overconfidence." O: "He is overconfident."

X: "How do you think about that people?" O: "What do you think about those people?"

X: "I'm tired to talk to those people." O: "I will get tired of talking to those people."

Next week is a break so we won't have any tutorial classes. Our next class together will be unit 5, Arguments. I hope to see everyone in it! Don't forget to do your lesson review task before then.

Dusty

Please be sure to return by 11:50pm the day before your next class. Be sure to use full sentences, the language that you studied in class and to expand on your ideas. Also don't forget to spell check!

図 4 毎回の成績管理（専用学習サイトで、チューターが行うポイント評価

Lesson Review Task: 1. Which one of your English skills would you like to improve the most? How can you work on it during this course? 2. Choose a family member, a friend or a famous person. Describe their character and discuss how compatible you are with them.		課題 学生の回答
To tutor 1. I would like to improve my English speaking skill the most. I am not good at speaking even in Japanese, but I want to have a smooth English conversation with friends. During this course, I will not forget to prepare for lessons, because I think I can find exact words to say easily if I do preparations. 2. I choose my friend. She is an open-minded person. Sometimes she becomes absent-minded. But she is also strong-minded, and she is studying very hard to achieve her goal. I like her because she has never become two-faced. She never changes what she says according to who she is talking to. Therefore I can trust her and talk with her about everything.	2010-10-26	

学生は、毎レッスン後に、復習課題「Lesson Review Task」を学習専用サイト上に提出する。
提出されたLesson Review Taskをチューターが学習専用サイト「*Tutorial Site*」にて0～6ポイントで評価

4

図 5 Lesson Review Tasks の提出画面

Mid-term Strong Points - Working with others - Use of target language Sakurako, you have improved a lot in a short time. You are able to logically state your ideas and blend the target language with them. In class, you are not scared to disagree with your partners and the conversations are much more interesting because of this. Please keep it up. Points to work on - Fluency - Grammar When speaking, you seem a bit nervous. You very carefully form and put a space between each word. While you are clear and easy to understand, it makes you sound a bit unnatural. Try combining some of your words together to make your English smoother. For example, instead of say "What do you think?" try saying "Whadayathink?" Your grammar is always improving, although I notice that you tend to make small mistakes with your subjects and verbs. For example I heard you say "I has been influenced." This should have been "I have been influenced." Thanks for coming to every class on time and well prepared! Keep up the good work.	Final PROGRESS SINCE MIDTERM In the midterm, I mentioned that you sounded a bit nervous when speaking. I was glad to see that you looked up more when speaking and tried to be more aggressive in sharing your ideas and questioning your partners. By disagreeing more often, you sounded more confident as well as helped the conversations last longer. Great Job. FUTURE STUDY ADVICE You still tend to have clear pauses between each word. While speaking this way reduces your grammar mistakes, it makes you sound a bit unnatural. I recommend watching DVDs in English with the English subtitles on. Try reading out loud along with the characters as they speak. It's difficult but useful! I have also attached a website that may help you improve your fluency. I hope you will try it. American English Pronunciation: pronunciation exercises with audio available http://evaeaston.com/prhome.html SUMMARY Sukurako, thank you for attending every class on time and ready to discuss the day's topic. You were always the first student to class and though you were tired, you tried hard to share your opinions and complete the exercises to the fullest. I hope you will try the discussion class next semester if you have a chance. I think you will enjoy it.
---	---

チューターが、一定の回数を出席した学生に対して、学習専用サイト上に、個別に中間評価・学期末講評エッセイを掲載する。

5

図 6 チューターの間中期末の講評

全体評価は 2001 年度から 4 回改訂され、GPA に近い評定ができるように改良した。

各学部へは学部の全体評価の平均値と受講生全体の平均値、事前事後の WeTEC の学部平均、大学全体の平均を報告し、学部からの要望も承っている。年 2 回英語部門委員会でも報告され、教育プログラムの改善要求を討論している。英語部門委員会は学内の教員のネットワーク作りにも効果的で、オープン教育センター(現グローバルエデュケーションセンター)では、管理ばかりでなく、英語部門委員会で ICT 活用事例紹介なども行ってきた。表 2 は 2009 年度の例であるが、毎年、同じような結果になっている。WeTEC の事前事後テストを比較したもので、口語英語のテストは含まれていないものの、成果測定の一部になっている。WeTEC は教育測定研究所の CASEC カスタマイズしたもので、一般的な英語能力テストであり、英語チュートリアルを受講した学生が、学習した内容を検査しているわけではない。学習した事項がテストで試され、その応用力を吟味することが、成果測定であるので、筆者は早稲田大学アカデミック・ソリューション テスト担当者と協力し、20012 年から 4 年間かけて 2007 年度からの Lesson Review Unit Tests のテスト項目を等化し、コンピュータ適応型の新 WeTEC を 2016 年に完成させた。逐次、テスト項目を等化し、アイテムバンク化する計画である。また、同時に、ジスココース完成課題による、口語テストも開発する計画が進行している。

表 3 2009 年度の事前・事後テストの比較

レベル	人数(人)		事前(点)	事後(点)	平均値の差 (事後－事前)
全体	5,626	平均値	620	641.25	21.25
		標準偏差	127.22	134.68	
Beginner	83	平均値	235.48	335.54	100.06
		標準偏差	79.65	150.98	
初級	902	平均値	474.47	526.62	52.14
		標準偏差	136.69	152.03	
準中級	1,166	平均値	572.35	601.87	29.52
		標準偏差	72.62	101.51	
中級	1,311	平均値	629.48	644.75	15.27
		標準偏差	56.58	93.57	
準上級	1,570	平均値	694.93	699.71	4.78
		標準偏差	49.36	94.76	
上級	594	平均値	769.29	773.08	3.79
		標準偏差	74.93	88.54	

英語チュートリアルは 2001 年から 2007 年にかけて CEFR の 6 レベルへと完成していった。CEFR との対応関係を調べるために、筆者らは、(Schneider, Günther & North, Brian (2000) の実験に基づいて、対応関係を測定した。評価項目は 199 項目あった。参加者数

は表 4 に示す。カッコ内の数字は学生の能力を判定したチューターの数を示している。
表 5 は各英語能力についての学生の自己判断とチューターの判断の相関を示している。

表 4 実験参加者数

レベル	受講者数
Beginner	32 (13)
Basic	417 (153)
Pre-Intermediate	591 (225)
Intermediate	601 (229)
Pre-Advanced	704 (266)
Advanced	274 (96)
計	2619 (982)

表 5 学生の自己判断とチューターの判断の相関

	<i>Pearson's r</i>
	(ピアソン相関係数)
Spoken Interaction	0.849
Spoken Production	0.969
Language Strategies	0.899
Language Quality	0.831

図 7 は Spoken Interaction についての実験参加者（学生）の項目難易度と CEFR の関連を示している。項目応答理論では学生の能力のほかに、項目の識別力、難易度、gussing rate が測定できる。Bilog-MG で能力値、項目困難度、項目識別度を推定した。この 3 つの値を利用し、項目特性曲線（Item Characteristic Curve: ICC）を描くことで教材の整合性をチェックできる。即ち、各レベルの教材にレベル間の整合性がない場合、曲線は交差するので、レベル間の整合性を確かめることができる。

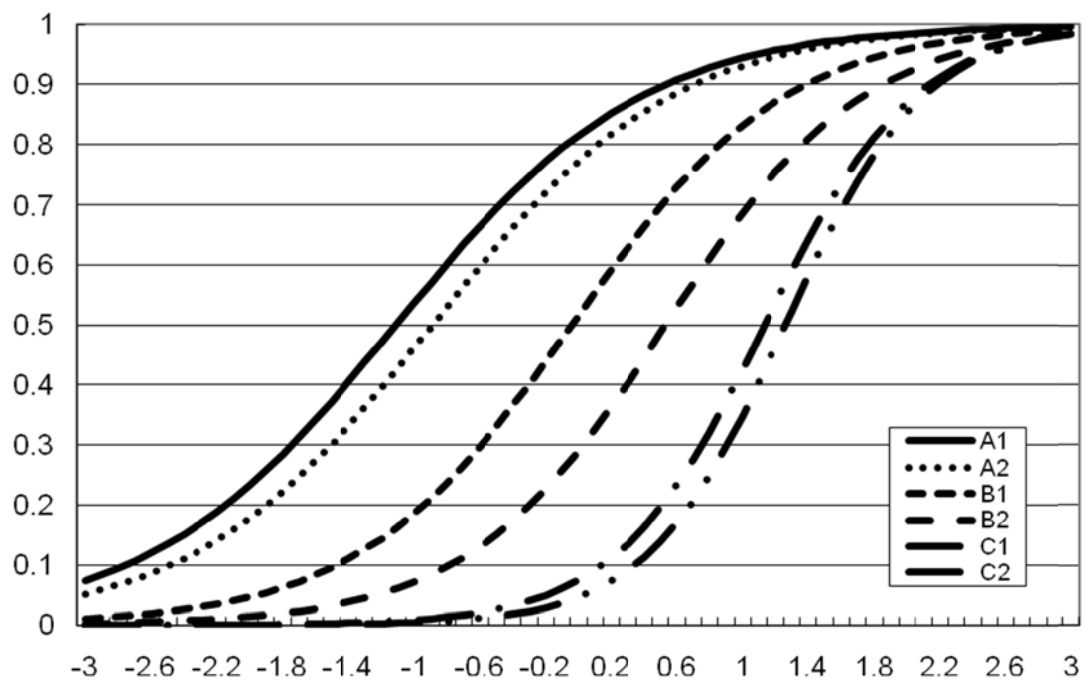


図 7 学生の判断による項目特性曲線

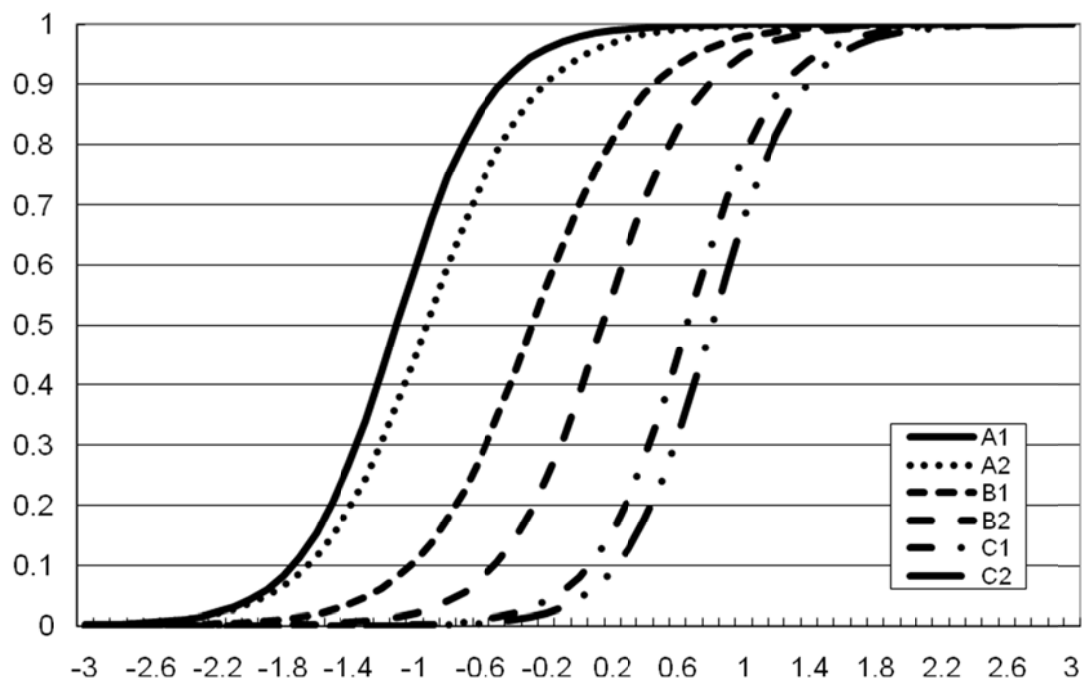


図 8 チューターの判断による項目特性曲線

図 7 と図 8 を比較すると、曲線の傾きが異なっている。傾斜の強さは、識別力の強さをしめし、チューターの判断はレベル別の識別をより明確になっている。

異文化交流の授業については、標準教科書を早稲田大学で準備し、協定校の参加者が活用している。3 種のコースがあるので、それぞれのコース内容の概要は以下のようである。

Social and Global Issues

Happiness Factors

Family Systems

Globalization in your Community

Climate Change

Free Topics:

Changing family systems. e.g., aging society, nuclear family, different family names of married couples, interracial marriage, etc.

Globalization. e.g., immigrants in your society, immigrant policy, discrimination against foreign workers, SNS, etc.

Media Course

Advertising methods

Front Page analysis

Country Images

Pop Culture

Free Topics:

Changing communication styles, e.g., social networking service, blogs, mobile phones, Advertising strategies of global corporations, e.g., media mix, market research, local adjustments

International Career Path

Work-Life Balance

Distribution of Reward & Recognition

Entrepreneurship

Global Partnership

Free Topics:

Characteristics of domestic companies and global companies: e.g.,
seniority system, merit system, lifetime employment, company unions,
industrial unions
Cross-cultural business communication: e.g., negotiation in business,
business tips (business manners, seating arrangements, business cards,
gift-giving.

授業は週 1 回行われ、交流形態は以下のようになっている。

- W1: Course Introduction
- W2: Topic 1 [Self-Introduction] ・ LiveOn Oral Chatting Session
- W3: Topic 2 [Happiness Factors] LiveOn Oral Chatting Session
- W4: Topic 3 [Family Systems] LiveOn Oral Chatting Session
- W5: Preparation for Topic 6 TV conference
- W6: Topic 4 [Globalization in your community] LiveOn Oral Chatting Session
- W7: Topic 5 [Climate Change] LiveOn Oral Chatting Session
- W8: Topic 6 [Free Topic] ・ TV Conferencing Session
- W9: Topic 6 [Free Topic] ・ TV Conferencing Session
- W10: Review and Follow-up 1 with International students (PAs)
- W11: Review and Follow-up 2 with international students (PAs)
- W12: Review and Follow-up 3 with international students (PA)
- W13: Preparation for the Final Presentation 2
- W14: Final PPT Presentation 1 in English
- W15: Final PPT Presentation 2 in English

異文化交流担当教員は、環太平洋応用言語学会 (PAAL) や大学英語教育学会 (JACET)、外国語教育メディア学会 (LET) の全国大会開催時に発表することが奨励され、学会開催の後に参加教員のワークショップが開かれている。討議の内容は、授業形態の吟味、教科書内容の改善、参加学生が一堂に会し、発表と討議をする学生国際会議のテーマの検討を行っている。

また、異文化交流実践講座では、吉田諭史氏と共同で、異文化交流という状況で、英語学習への動機が高まるか、ソーシャルスキルが向上するかについて、2007年から毎年調査し、2015年度までは学会報告の他、遠隔教育センターや大学総合研究所へ書面報告を行ってきた。

3. 社会的習得環境について

上記2節で述べたように、CCDL 異文化交流に参加している教員は環太平洋応用言語学会、大学英語教育学会、外国語教育メディア学会のいずれかに参加し、大会直後に開催される CCDL Teachers' Workshop に参加することになっている。研究成果を公表し、担当教員間で知識を共有することが大切なので、学会参加とワークショップを合体させた形式をとってきた。また、筆者が代表になっている JACET-ICT 調査研究特別委員会が2007年から発行している *JACET-ICT Theory and Practice* に投稿できるようにした。今までの開催個所を以下に掲載する。

2008 TamgKang University, Taiwan.

2009 Waseda University

2010 Waseda University

2011 Due to Tohoku Earthquake, no meeting

2012 Waseda University Beijin Office, China

2013 Korea University, Korea.

2014 Waseda University

2015 Waseda University

Workshop では、授業状況の報告と教科書の改定、International Student Forum のテーマについて討議している。

学生参加者は一同に会する機会がないため、半期に1度 International Student Forum を多地点のテレビ会議で開催している。学生国際会議のテーマは以下のものであった。

International Student Forum

第1回 2009年12月4日（金）

What is an “international personality” in this age of globalization?

第2回 2010年6月9日（水）

What is your ideal vision of East Asia' s future?

第 3 回 2010 年 11 月 30 日 (火)

Introducing Local Daily Culture

第 4 回 2012 年 11 月 30 日 (火)

Global Trends and Local Reactions

第 5 回 2013 年 5 月 30 日 (木)

Glocal Competence: What global (outside your country) and local (in your country) abilities are needed in today' s world?

第 6 回 2013 年 11 月 28 日 (木)

Impact of social media on society in the age of globalization

第 7 回 2014 年 5 月 27 日 (火)

Socio-political issues and national identity: what do Asian students want others to know?

第 8 回 2014 年 12 月 2 日 (火)

How does your country use soft power?

早稲田 3 段階方式の 3 段階目に属する多地点遠隔授業 World Englishes and Miscommunications では、シンガポールで 5 日間の合宿を行った。早稲田の受講生とアジアの各大学から 3 名と担当教員が参加した。この合宿形式のシンポジウムでは担当教員の研究発表と学生は毎年異なるテーマに沿ったグループプロジェクトを行った。この時の発表は *JACET-ICT Theory and Practice* に掲載された。合宿最終日に発表会を開催した。学生のプロジェクト・テーマを以下に掲載する。

Waseda-RELC International Seminar

• Ist RELC-Waseda Intenational Student Seminar, 6th of Feb., ~10th of Feb., 2006.

The students choose one of the four possible topics.

1. What are common grammatical deviant features in Asian Englishes?
2. What are common pronunciation features in Asian Englishes? Which features are unique in each variety?
3. What are common pragmatic features (such as Apologizing, Compliments, Thanking, Refusal or Requesting) in Asian Englishes?

4. Which varieties can be included in Asian Englishes or Interlanguage?

- 2nd RELC-Waseda International Student Seminar, 11th of Feb., ~ 15th of Feb.,
2007

Discuss the relationship between Language and Identity.

- 3rd RELC-Waseda International Student Seminar, 22nd of Feb. ~ 26th of Feb.,
2008

Your English & Your Own Culture. Present any aspect of your culture which is difficult to be translated into English.

- 4th RELC-Waseda International Student Seminar, 11th of Feb. ~ 17th of Feb.,
2009

State-building and state-identity. Present how your nation has been developed and how do you think your identity is reflected in your state-building stages.

- 5th RELC-Waseda International Student Seminar, 19th of Feb. ~ 23rd of Feb., 2010

Is it possible to have a standard South-East Asian English? If so, what are the special features? What sort of benefits will it give for economy and international co-operations?

- 6th RELC-Waseda International Student Seminar, 11th of Feb. ~ 15th of Feb.,
2011

Globalization, Professional Mobility and the roles of English.

- 7th RELC-Waseda International Student Seminar, 17th of Feb. ~ 21st of Feb.,
2012

Present your views on human resources required for the Age of Global Economy

- 8th RELC-Waseda International Student Seminar, 15th of Feb. ~ 19th of Feb.,
2013

What is your concept of successful bilinguals in Asia?

- 9th RELC-Waseda International Student Seminar, 14th of Feb. ~ 18th of Feb., 2014

Does the worldview in World Englishes conflict with the notion of Global Human resources at the age of global economy?

- 10th Waseda International Student Seminar, 9th of Feb ~ 11th of Feb., 2015

Your notion of global leader: the most important competence he/she should have.

教員の研究発表はオンデマンド講義として活用し、かつ、JACET-ICT 調査研究特別委員会の年次報告に論文として掲載した。

4. 教育システム構築に向けて

教育をシステム化するときには、採点を自動化するのが望ましいが、レベル分けテストはコンピュータ適応型の WeTEC があり、目下、事前事後テストに改定するために等価実験を繰り返してきたので、2017 年には実用化されることになっている。自動化されにくいのは、英語口語能力のパフォーマンス評価のための自動採点、英作文の自動採点である。英語チュートリアルや異文化交流は英語口語運用能力を促進するための教育プログラムであるので、自動採点は当初より目指していた。また、オープン科目の Critical Reading and Writing や Discussion Tutorial English でも、英文エッセイが課題となっている。英文エッセイの自動採点も心がけてきたが、補助的なものしか成し遂げられていないが、報告したい。Reading 過程の実験は、Learning Analytics and Knowledge (LAK) での方法を踏襲し、ある程度の成果を上げたので、実験結果をまとめてみたい。

発話自動採点の研究は実用化されているものもあり、Versant (Pearson Knowledge Technologies, 2011) や TOEFL Practice Online で利用されている Speech Rater (Zechner et al., 2009; Higgins, Xi, Zechner, & Williamson, 2011) が有名である。しかし、Versant は、与えられた単語の反対語を発話する課題や与えられた単語を用いて文をつくる (Sentence Building) 課題であり、口語発話にある程度近いものの、パフォーマンス評価とは言えない。近藤 (2012) は、読み上げ文の自動評価をまず手掛けた。近藤、中野、上田、大和田、吉田、大矢が 2012 年から 3 年間かけてチュートリアル 6 レベル 120 Units にそれぞれ 15 項目の DCT タスクを完成させた。音声認識の部分は近藤が担当し、2015 年には 71% の単語認識ができるようになった。ETS の TOEFL Practice Online は 2009 年度で平均 50% の単語認識ができ、2016 年には TOEFL Junior が簡単な課題を用いているため、74% の単語認識率となっている。近藤の手法は、認識対象となる音素の特性を集積した音響モデルと語の並びの情報を集積した言語モデルを用いて発話を単語列に変換し、認識対象となる発話音声は短い時間に区切られ、どの時間にどの音素が発話されたかを音響モデルにある音素と照合する従来の手法を踏襲している。認識対象とな

る音素は、音響モデルにある音素との類似度をもとに、どの音素であるかが判定されている。しかし、まだ研究段階で、実際の授業に用いられていない。

英作文の自動採点は、n-gramを用いた教育測定研究所のものでは、中学校の英作文の指導に役立つものが製品化されている。中野・吉田（2011）は Critical Reading and Writing に活用すべく、72 個の統計指標を用いて、最も教員の採点項目を予測する統計指標を求めたが、総語数、Type-Token Ratio (TTR)、Accuracy で 34% の R^2 をえた。しかし、その後進展はしていない。学生が書く英作文はとにかく間違いが多いので、矯正課題を自動化するのが先決であると考えた。2012 年から、エンリケズ、吉田、中野は、学生の間違いやすい事項を矯正する課題を自動採点の方式で各種作成した。2012 年には、文章構造のロジックを教示するための文章の並び替えの練習を Java Script で作成し、Rearranger と命名した。2013 年には、Cohesion（文章の結束性）と Coherence（意味の一貫性）のための自動採点課題を作成し、Linker, Eraser と呼んだ。2014 年には文章全体の流れのなかで、各文の主題と述部の果たす役割や関係性を学ばせるプログラムを作成した。2015 年には文法課題（主語と動詞の数の一致、時制、定冠詞と不定冠詞の用法）を、荒本（2015）の編集履歴可視化プログラムに基づいて、文法エラー矯正課題を作成した。エンリケズは 2016 年には Unity を Platform として利用し、Rearranger, Linker, Reader, Eraser, Clicker, Filling the Blanks, Questionnaire のプログラムを一括方式で扱える方式に改良した。

教材をデジタル化し、学習ログを収集することで、読解過程における様々な行動を観察することが可能である。中野、吉田、近藤、須子（2015）は、荒本道隆（2015）が開発したログ収集システム（学習履歴閲覧・可視化システム）を Moodle 上で実施し、ページ遷移や各ページの閲覧時間のみならず、辞書参照履歴や音声資料の再生履歴を収集した。このシステムにより、各学習者が使用する読解ストラテジーを同定できる。2014 年 11 月のパイロット実験を踏まえ、実験条件を改良し、本実験は 2015 年 7 月に 2 クラスで実施し、合計 19 人が参加した。12 個の変数があり、14 対の変数間で相関が高く、多重共線性が観察されたので、ステップワイスの重回帰分析を行った。学習履歴閲覧・可視化システムは、図 1 が例証している。読解過程グラフでは、操作説明が 12 ページあり、本文の読解ページが 9 ページあり、三択問題 6 問、記述問題が 10 問の各回答時間と回答するときどのページに戻って行ったかが示されている。カラーの折れ線は記述の文字数を表している。この用紙を印

刷し、学生が使用したストラテジーを番号で書きこんだものが図 2 で示されている。

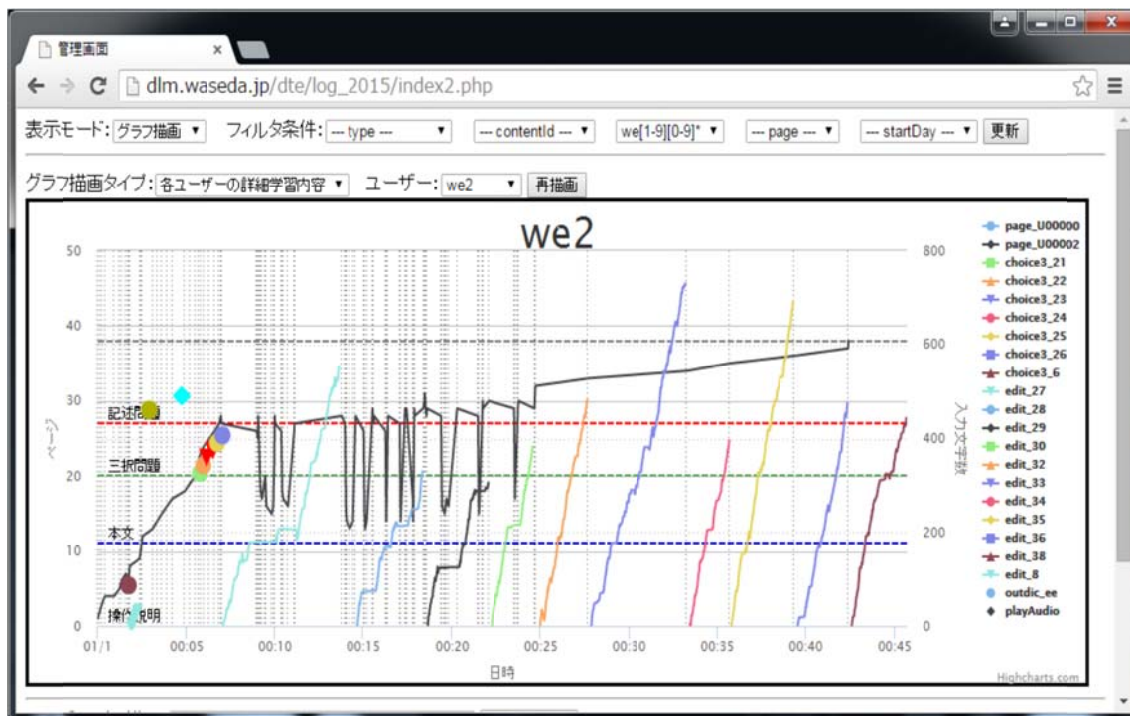


図 9 学習履歴閲覧・可視化グラフの 1 例

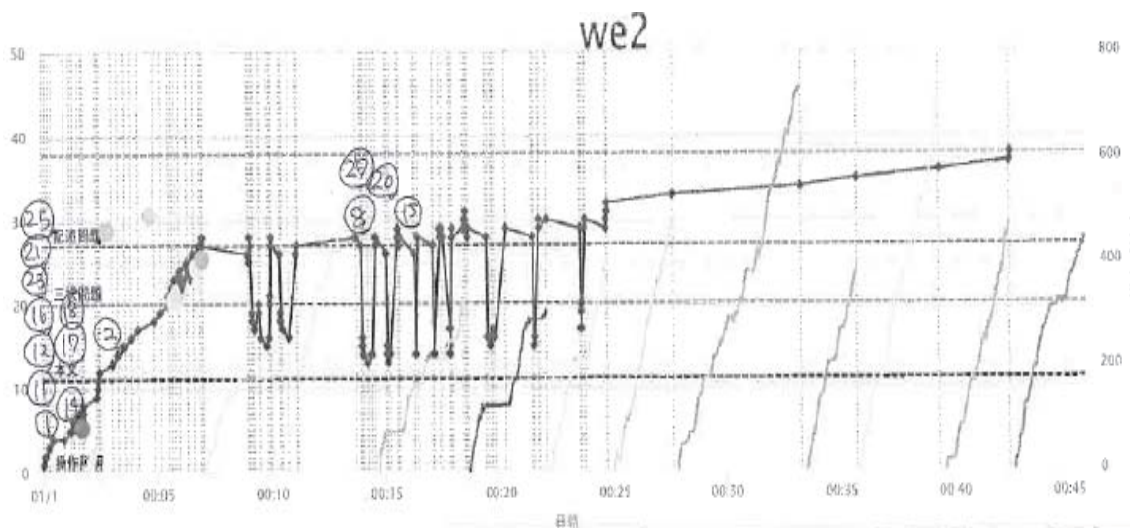


図 10 学生の読解ストラテジーの使用例（全体図）

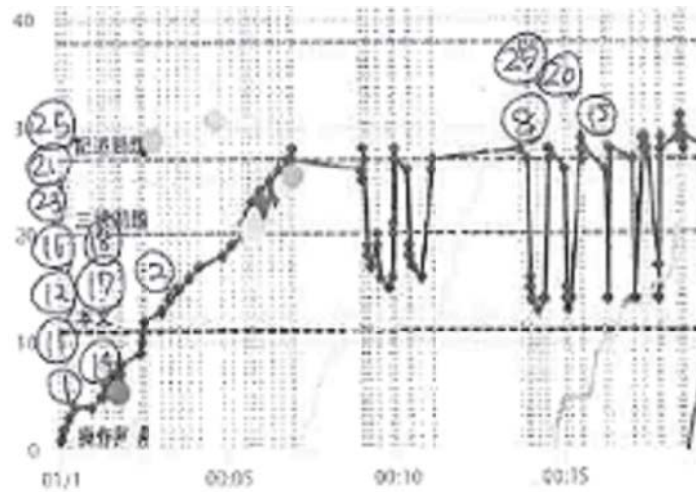


図 10 (部分拡大図)

表 6 ステップワイズの重回帰分析結果

		係数 ^a							
モデル		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量		条件指数
		B	標準誤差	ベータ			許容度	VIF	
7	(定数)	25.455	7.365		3.456	.005			1.000
	Selfstudy	13.044	3.581	.576	3.643	.003	.849	1.178	3.561
	Knowledge	3.826	1.162	.559	3.294	.006	.739	1.353	3.893
	Cognitive	3.256	1.076	.582	3.026	.011	.575	1.740	5.866
	Supporttive wordtest	-2.197	1.437	-.296	-1.530	.152	.568	1.760	11.419
8	(定数)	-2.010	.907	-.421	-2.215	.047	.588	1.700	13.241
	(定数)	23.934	7.664		3.123	.008			1.000
	Selfstudy	11.916	3.680	.527	3.238	.006	.887	1.128	3.312
	Knowledge	3.136	1.124	.458	2.790	.015	.871	1.149	5.448
	Cognitive wordtest	2.324	.931	.415	2.495	.027	.847	1.181	9.097
9	(定数)	-1.295	.817	-.271	-1.585	.137	.801	1.249	10.938
	(定数)	18.193	7.109		2.559	.023			1.000
	Selfstudy	11.123	3.838	.492	2.898	.012	.903	1.107	3.001
	Knowledge	2.738	1.153	.400	2.374	.032	.916	1.091	4.861
	Cognitive	1.799	.916	.321	1.963	.070	.969	1.032	9.019
a. 従属変数 CompScore									

a. 従属変数 CompScore

ステップワイズの回帰分析の結果、自学自習の経験、認知ストラテジーと知識が内容理解に影響を及ぼす要因とわかったので、自学自習をしたくなるような環境作り、認知ストラテジーの活用例を説明、良い読み手と悪い読み手の比較など授業中に解説することが大切であることわかった。また、何を読ませるにしろ、事前知識をブレン・ストーミングさせたり、Mind Mapを書かせることも効果があろう。読解過程可視化グラフは、学生個人個人のストラテジーの指導に役立つ。課題の論説文の内容に興味を持ち、自分

と作者の意見の相違があれば、なぜかを考えながら読んだり、意見が同じであれば、理由が同じか異なるかを吟味しながら読み進み、記述問題の解答は多角的な視野で書き込むことが大切であることを教場で指示できた。このように、英作文や読解過程の究明が先決で、英作文そのものの自動採点は完成していないが、授業中への教授法の改善や弱点項目を学生が克服していく課題作成が急務であると判断し、実行した。

参考文献

- 中野美知子（共編著）（2003）. *Research reports on cross-cultural distance learning (CCDL) Vol. 1*. 早稲田大学 CCDL 研究所.
- 中野美知子（共編著）（2003）. *Research reports on cross-cultural distance learning (CCDL) Vol. 2*. 早稲田大学 CCDL 研究所.
- 中野美知子（分担：コーパス言語学分野責任者、評価コーディネーター）（2003）. 小池生夫（編）『応用言語学事典』 研究社.
- 中野美知子（共編）（2003）. 『科研費報告書：遠隔授業・双方向異文化語学演習と海外共同ゼミの可能性-教材蓄積と教育評価システム』 基盤（B）
- 中野美知子（共編著）（2003）. *Research reports on cross-cultural distance learning (CCDL) Vol. 3*. 早稲田大学 CCDL 研究所.
- 中野美知子（共著・分担）（2004）. 『第二言語習得研究の現在』 大修館書店.
- 中野美知子（共著）（2004）. 「項目応答理論に基づいた英語クラス分けテスト開発における一考察」 早稲田大学教育総合研究所, 18, 25-42.
- 中野美知子（監修）（2005）. *Research reports on cross-cultural distance learning (CCDL) vol. 4*. 早稲田大学 CCDL 研究所.
- 中野美知子（監修）（2005）. *Research reports on cross-cultural distance learning (CCDL) Vol. 5*. 早稲田大学 CCDL 研究所.
- 中野美知子（編著）（2005）. 『英語教育グローバルデザイン』 学文社.
- 中野美知子（監修）（2005）. 英語能力診断テスト. 早稲田大学オープン教育センター.
- 中野美知子（共著）（2006）. 『アジア世界のことばと文化』 成文堂.
- 中野美知子（2006）. 「アジア諸国における大学間遠隔教育の理念と実践」 第 20 回日本アジア英語学会基調講演 『清泉女子大学 2006 フォーラム』 [*Seisen Language Education Institute Forum*], 35-47.
- 中野美知子（2006）. 「英語教員研修の問題点：英語力の強化と授業力の強化～海外派遣か国内研修か～」 身体、アーティファクトを用いた効果的コミュニケーション過程の分析と FD への応用. 科学研究費補助金報告書 120-137.
- 中野美知子（2006）. 「PhonePass 講演会まとめ」 小池生夫（研究代表者） 『第二言語習得を基盤とする小、中、高、大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究』 科学研究費補助金中間報告書. 基盤研究（A） 321-325.
- 中野美知子（2006）. 「活用事例報告：早稲田大学の英語教育と CEF」 小池生夫（研究代表者） 『第二言語習得を基盤とする小、中、高、大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究』 科学研究費補助金中間報告書. 基盤研究（A） 342-350.
- 中野美知子（2006）. リスニング力を高めるために 1 理論と実践. 『三省堂高校英語教育』 2-6.
- 中野美知子（2006）. 「早稲田大学の英語教育とヨーロッパ言語共通参照枠組み」 『2006 年度教育改革 IT フォーラム』 45-50.
- 中野美知子（2006）. 「CASEC：個人適応型英語能力テスト」 小池生夫（研究代表者） 『第二言語習得を基盤とする小、中、高、大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究』 科学研究費補助金中間報告書. 基盤研究（A）. 301-305.

- 中野美知子・近藤 悠介・上田 倫史・筒井 英一郎・大和田 和治 (2006). 「FACETS を用いたアジア人英語学習者のスピーキング能力の評定に関する一考察」 日本テスト学会第4回大会予稿集, 38-41.
- 中野美知子 (2007). 「アジア諸国における大学間遠隔教育の理念と実践」 『清泉女子大学 2006 フォーラム』 [*Seisen Language Education Institute Forum*], 35-47.
- 中野美知子・近藤 悠介・筒井 英一郎 (2007). 「CEFR に準拠した教科書を学習した学生の英語運用能力自己診断と教員による学生の英語運用能力判定の比較」 小池生夫 (研究代表者) 『第二言語習得研究を基盤とする小、中、高、大の連携をはかる英語教育の先駆的基礎研究』 425-445.
- 近藤悠介・筒井英一郎・中野美知子・鏑木元・中村静・匂坂芳典 (2007). 英語学習者による音読における主観的評価と客観的測定値の関係. 第21回日本音声学会全国大会予稿集, 51-55.
- 中野美知子 (分担) (2008). 山地弘起編「5 章国際コミュニケーションの教育利用」. 『大学の英語教育を変えるコミュニケーション力向上への実践指針』 玉川大学出版部.
- 中野美知子 (監修) (2008). 2007 年度 ICT 授業実践報告書 Information Communication Technology Practice & Research 2007. 大学英語教育学会 (JACET) ICT 特別委員会発行.
- 中野美知子 (研究代表) (2008). 『国際教養育成と議論力及び交渉力養成の為にオンデマンド遠隔型語学国際交流の展開』 平成 15 年度～18 年度科学研究費補助金 (基盤 B 研究成果報告書).
- 筒井英一郎・中野美知子 (分担翻訳) (2008). 「テストの不正行為を最小限度にするための問題項目とテストの作成方略」. 教育測定研究所 池田 央日本語版監訳 『テスト作成ハンドブック - 発達した最新技術と考え方による公平妥当なテスト作成・実施・利用のすべて』.
- 千葉栄一・中野美知子・小倉健太郎・川村誠司 (2008). 多言語利用可能なオントロジーを使った遠隔教育コンテンツ検索システムの有用性評価. 情報処理学会研究報告, 1-6.
- 中野美知子 (代表) (2009). 2008 年度 JACET-ICT 活動報告書. JACET-ICT 調査研究特別委員会.
- 中野美知子 (分担) (2009). 生井健一・深田嘉昭 (編著). 『言語・文化・教育の融合を目指して』. 開拓社.
- 中野美知子 (2009). テレビ会議システムや音声チャットによる異文化交流 実践的方法論. 全国調査から見る『ICT 教育-実践・評価・理論 2008 JACET-ICT 活動報告書』 307-328.
- 中野美知子・吉田 諭史 (2009). 「アンケート調査によるソーシャルスキルの主観的測定: 2008 年度調査結果」 『全国調査から見る ICT 教育-実践・評価・理論 2008 JACET-ICT 活動報告書』 23-57.
- 吉田諭史・中野美知子 (2009). 「学習動機の学習者内観調査: 2008 年度調査結果」 『全国調査から見る ICT 教育-実践・評価・理論 2008 JACET-ICT 活動報告書』 59-97.
- 中野美知子 (2009). 「JOCW 教材のオントロジー検索の実験- World Englishes and Miscommunications コースを用いて-」 平成 21 年度 工学・工学教育研究講演会, 426-427.
- 近藤悠介・中野美知子 (2009). 「英語学習者のための音読自動評価システムの構築」 2009 年 (平成 21 年) 度 第 23 回日本音声学会全国大会予稿集, 87-92.
- 中野美知子 (代表) (2010). 『2009 年度 JACET-ICT 活動報告書』 JACET-ICT 調査研究特別委員会.
- 中野美知子 (2010). 特別シンポジウム. 「早稲田企画: 早稲田大学での ICT 活用実践」 外国語教育メディア学会 *Conference Proceedings*, 30-44.
- 中野美知子 (2010). 「英語教員研修の問題点: 英語力の強化と授業力の強化～海外派遣か ICT を利用した国内研修か～」 『JACET-ICT 2009 年度実践報告書』 257-275.

- 中野美知子（代表）(2011). 『2010 年度 JACET-ICT 活動報告書』 JACET-ICT 調査研究特別委員会.
- 見上晃・西堀ゆり・中野美知子（共編著）(2011). 英語教育学体系第 12 巻. 『英語教育におけるメディア利用 CALL から NBLT まで』 大修館.
- 中野美知子・根岸純子・大和田和治（2011）. 「ICT を活用した異文化交流実践講座・国際学生会議の試み」『2010 年度 ICT 授業実践報告書』 105-115.
- 中野美知子・熊木秀行・渡辺彰子（2011）. 「談話完成タスク（DCT）インタビュー：話しことばの特徴とポライトネスレベル及び談話行為成功率」『2010 年度 ICT 授業実践報告書』 117-128.
- 吉田論史・中野美知子（2011）. 「CCDL CMC 交流における英語学習動機：2010 年度調査結果」『2010 年度 ICT 授業実践報告書』 147-159.
- 吉田論史・中野美知子（2011）. CCDL 交流における異文化間ソーシャルスキル：2010 年度調査結果. 2010 年度 ICT 授業実践報告書, 161-174.
- 中野美知子・吉田論史（2011）. 「CEFR Can-do 式能力記述文に関する一考察：日本の英語教員・大学院生・大学生による難易度ランクづけ」『2010 年度 ICT 授業実践報告書』 175-182.
- 小泉大城・斉藤友彦・中澤真・中野美知子・平澤茂一（2011）. 「クラウド環境上の仮想化デスクトップを用いた e ラーニング」『2011 年度日本 e-Learning 学会学術講演会論文集』（CD-ROM）, 86-91.
- 中野美知子（代表）(2012). 『2011 年度 ICT 授業実践報告書』 大学英語教育学会 JACET-ICT 調査研究特別委員会発行.
- 近藤悠介・中野美知子・平澤茂一・小泉大城・斉藤友彦（2012）. 「仮想化デスクトップを用いた e ラーニング～英語教育の場合」『情報処理学会第 74 回全国大会講演集』 4, 475-476.
- 中野美知子・近藤悠介・永間広宣・黒田学・神馬豊彦（2012）. 「タブレット端末、モバイル端末を利用した英語学習の試み」『情報処理学会第 74 回全国大会講演集』 4, 477-478.
- 中野美知子等（2012）. 「CEFR に基づいたスキル認定書策定への試み」 *JACET KANTO Journal*, 2, 48-59.
- 中野美知子（代表）(2013). *Information communication technology practice & research 2012*. 大学英語教育学会 JACET-ICT 調査研究特別委員会発行.
- 中野美知子（分担執筆）(2013). 投野由紀夫（編）. 『CAN - DO リスト作成・活用英語到達度指標 CEFR - J ガイドブック』. 大修館書店
- 中野美知子・小泉大城・平澤茂一・近藤悠介（2013）. 「異文化交流実践講座（Cross-Cultural Distance Learning: CCDL）の学習効果調査：学習者の動機を高める授業になっているか」『情報処理学会第 75 回講演論文集』 4, 1395-1396.
- 中野美知子・小泉大城・平澤茂一・近藤悠介（2013）. 「異文化交流実践講座（Cross-Cultural Distance Learning: CCDL）の学習効果調査：ソーシャル・スキルは向上するのか?」『情報処理学会第 75 回講演論文集』 4, 1397-398.
- 小泉大城・中澤真・近藤悠介・中野美知子・平澤茂一（2013）. 「異文化交流実践講座（Cross-Cultural Distance Learning: CCDL）の音質・遅延・画像についての主観調査」『情報処理学会第 75 回講演論文集』 4, 399-400.
- 中澤真・小泉大城・近藤悠介・中野美知子・平澤茂一（2013）. 「早稲田大学の異文化交流授業（CCDL）におけるネットワーク回線の通信品質とその影響について」『情報処理学会第 75 回講演論文集』 4, 401-402.
- 近藤悠介・中野美知子・永間広宣・黒田学・神馬豊彦（2013）. 「タブレット端末、モバイル端末を利用した英語学習の試み（2012 年度前期）」『情報処理学会第 75 回講演論文集』 4, 403-404.
- 近藤悠介・中野美知子（2013）. 「談話完成タスクにおける第二言語の音声認識率向上の検討」『情報処理学会第 75 回講演論文集』 4, 405-406.
- 中野美知子・中澤真・小泉大城・近藤悠介・平澤茂一（2013）. 「早稲田大学の CCDL（Cross-Cultural Distance Learning）授業におけるネットワーク通信品質

- (QoS)の影響とその学習効果について」 *Information Communication Technology Practice & Research* 2012, 67-81.
- 近藤悠介・中野美知子 (2013). 「談話完成タスクを用いた英語学習者の発話データ収集と第二言語発話の音声認識率向上の検討」 *Information Communication Technology Practice & Research* 2012, 51-56.
- 近藤悠介・中野美知子・永間広宣・黒田学・神馬豊彦 (2013). 「モバイル端末を利用した英語学習の試み」 *Information Communication Technology Practice & Research* 2012, 43-49.
- 吉田論史・Enriquez Guillermo・中野 美知子 (2014). 「英語学習者向け電子教科書およびインタラクティブウィジェットの開発」『情報処理学会第76回全国大会 講演論文集』 4 391-392.
- 中野美知子・近藤悠介・中澤真・小泉大城 (2014). 「多地点サイバー交流授業(世界の英語たちとその誤解の原因ーオンデマンド授業と反転授業の試み)」『情報処理学会第76回全国大会講演論文集』 4, 481-482.
- 中澤真・小泉大城・近藤悠介・中野美知子 (2014). 「テレビ会議システムを用いたサイバーゼミナール形式英語授業におけるネットワーク回線の通信品質とその影響について」『情報処理学会第76回全国大会講演論文集』 4, 483-484.
- 吉田論史・ギエルモ エンリケズ・中野美知子 (2015). 「言語学理論に基づいた英語学習者向けデジタル教材とHTMLウィジェットの開発」『情報処理学会第77回全国大会 講演論文集』 pp.4-585~4-586. 京都大学, (2015.3)
- 中野美知子・吉田論史・須子統太・玉木欽也・ギエルモ エンリケズ(2015). 「詳細な学習ログを用いた英語リーディング過程の分析(2) ログデータから見た成績との関係」『情報処理学会第77回全国大会 講演論文集』 pp.4-503~4-504, 京都大学.
- 中野美知子(編著)(2015).『英語教育の実践的探究』溪水社.
- 中野美知子(2015). 情報処理学会シンポジウム「e-Learningによる英語教育の可能性と将来の予測」第77回情報処理学会全国大会 京都大学 2015年3月19日
- 中野美知子・吉田論史 (2015). 「Learning Analyticsを考慮した授業デザイン: 英文読解を例にとり」経営情報学会 2015年春期研究発表大会 大会プロシーディング pp181-184 日大生産工学部 5月19日
- 中野美知子 (2015). 「多地点遠隔教育の実践: World Englishes and Miscommunications VSS 及び 学習者ログ~e-learningの現状とこれから」言語文化教育学会シンポジウム早稲田大学 7月25日
- 中野美知子・大和田和・近藤悠介・吉田論史・上田倫史 (2015). JACET-ICT 調査研究特別委員会シンポジウム「異文化交流実践と授業形態、学習成果」第54回大学英语教育学会 鹿児島大学柳元キャンパス 8月29日
- 中野美知子 研究促進委員会シンポジウム「外部試験対応の賛助会員22社のアンケート調査」第54回大学英语教育学会 鹿児島大学柳元キャンパス 8月31日
- 中野美知子(2015) グローバル化とデジタル化による学習環境の変化「1対1対応の異文化交流について」第15回言語文化教育学会記念大会 依頼講演 早稲田大学 11月21日
- 中野美知子・荒本道隆・吉田論史 (2015). 「プログラミング学習の学習ログ収集ソフトウェアを活用した文法矯正練習の試み」日本経営工学会 2015年秋季大会 金澤工業大学 11月28日 秋季大会予稿集 pp11-12
- 佐藤一裕・荒本道隆・中野美知子・平澤茂一 (2015). 「英語リーディング過程の分析のためのeラーニング・アプリケーションソフトの開発」日本経営工学会 2015年秋季大会 金澤工業大学 11月29日 秋季大会予稿集 pp214-215.
- 荒本道隆・小林学・中澤真・中野美知子・後藤正幸・平澤茂一 (2016). 「編集履歴可視化システムを用いた Learning Analytics ~システム構成と実装」第78回情報処理学会、慶応大学理工学部矢上キャンパス 3月11日 情報処理学会第78回全国大会予稿集, pp.4-527-4-528.
- 中野美知子・荒本道隆・荊 紅涛・吉田論史 (2016). 「編集履歴可視化システムを用いた Learning Analytics (5) 英文ライティング教育への適応: 文法エラーの難度と訂正時間の関係」第78回情報処理学会、慶応大学・理工学部・矢

上キャンパス 3月11日 情報処理学会第78回全国大会予稿集,
pp. 4-531-532

- Nakano, M. (共著)(2003). *Cross-cultural distance learning and language acquisition*. Hankook MunWhasa, Seoul, Korea.
- Nakano, M. (共著)(2004). The transformative potential of IP videoconferencing in graduate professional education: Collaborative learning in Japan, Russia and the United States. *World Conference for Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunication*.
- Nakano, M. (共著)(2004). A development of a new test from the perspectives of learner factors: Cognitive styles, learning preferences, motivations and learning strategies. *The 9th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*.
- Nakano, M., & Bonham, G. M. (2005). The CCDL project: Learning across borders in a networked culture. In M. H. Field & J. Fegan, (Eds.), *Education across borders: Philosophy, policy, pedagogy - New paradigms and challenges* (pp. 259-276).
- Nakano, M. (2005). Networked English language education at Waseda University: Toward creating Asian-Pacific intelligence. *Proceedings of the 6th Symposium on Natural Language Processing, 1*, 182-187.
- Nakano, M. (2005). Cross-cultural distance learning and cyber seminars: Concepts and practices. *Proceedings of the 6th Symposium on Natural Language Processing, 1*, 193-198.
- Nakano, M., Bonham, M., Owada, K., Ueda, N., Oya, M., Tsutsui, E., Negishi, J., Yoshimoto, M., & Kondo, Y. (2005). Networked English language education at Waseda University: Toward creating Asian-Pacific intelligence (II)- CCDL and cyber seminars. *Proceedings of the 10th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 173-182.
- Kondo, Y., Ueda, N., Owada, K., & Nakano, M. (2005). A role of feature geometry in acquisition of segmental sounds: In the case of Chinese, Korean, and Japanese learners of English. *Proceedings of the 6th Symposium on Natural Language Processing, 1*, 151-156.
- Nakano, M. (共著)(2005). *Education across borders: Philosophy, policy, pedagogy? New paradigms and challenges*. Waseda University Media Mix.
- Nakano, M. (監修)(2005). *Journal of Pan-Pacific association of applied linguistics Vol 8 (2)*. Pan-Pacific Association of Applied Linguistics.
- Nakano, M. (共編著)(2005). *Proceedings of the 9th conference of Pan-Pacific association of applied linguistics*. Pan-Pacific Association of Applied Linguistics.
- Nakano, M. (Ed.)(2006). *CCDL teachers' manual Vol. 1*. Cross-Cultural Distance Learning Research Center, Waseda University. CD-ROM.
- Kondo, Y., Ueda, N., Tsutsui, E., Owada, K., & Nakano, M. (2006). Towards a new model of speech evaluation system within the framework of World Englishes in Asia. *Proceedings of the 11th conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 98-103.
- Nakano, M. (2006). General framework: CCDL. In M. Nakano (Ed), *CCDL teachers' manual. 1*, 7-17.
- Nakano, M., Owada, K., Ueda, N., Kodachi, K., Yoshimoto, M., & Kondo, Y. (2006). Networked English language education at Waseda University: Toward creating Asian-Pacific intelligence (1). In M. Nakano (Ed), *CCDL teachers' manual. 1*, 17-26.
- Nakano, M., Bonham, M., Owada, K., Ueda, N., Oya, M., Negishi, M., & Kondo, Y. (2006). Networked English language education at Waseda University: Toward

- creating Asian-Pacific intelligence (II)- CCDL and cyber seminars. In M. Nakano (Ed), *CCDL teachers' manual. 1*, 27-38.
- Wible, D., Chang, B-M., Yokota, M., Sumi, A. K., & Nakano, M. (2006). CCDL-centered courses in 2005 and 2006: Tamkang University-Waseda University, CCDL-centered courses in 2005 and 2006: NamSeoule University-Waseda University. In M. Nakano (Ed), *CCDL teachers' manual. 1*, 193-208.
- Tsutsui, E., Ueda, N., Kondo, Y., Owada, K., & Nakano, M. (2006). A diagnosis of Japanese EFL learners' individual differences. *Proceedings of the 12th conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 281-289.
- Park, K., Nakano, M. et.al. (2007). *Asia Englishes and miscommunication*. Korea University Press.
- Tsutsui, E., Nakano, M., Kondo, Y., & Owada, K. (2007). Using differential item functioning to detect individual differences of EFL learners. *Proceedings of the 12th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 174-175.
- Kondo, Y., Tsutsui, E., Tsubaki, H., Nakamura, S., Sagisaka, Y., & Nakano, M. (2007). Examining predictors of second language speech evaluation. *Proceedings of the 12th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 176-179.
- Tsutsui, E., Kondo, Y., & Nakano, M. (2007). Developing CEFR-based can-do descriptors to assess practical communication skills of Japanese learners of English. *Proceedings of the 12th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 186-189.
- Tsutsui, E., Owada, K., Kondo, Y., Ano, K., Ueda, N., & Nakano, M. (2007). Why do we need to teach communication strategies to Japanese EFL learners? *Proceedings of the 12th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 192-195.
- Kitagawa, A., Kondo, Y., & Nakano, M. (2007). Does vowel quality matter? *Proceedings of the 12th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 224-227.
- Nakano, M., Murao, R., Ito, S., Yokota, M., Sumi, A. K., & Mcdermott, D. (2007). Theme-based cross cultural distance learning: (1) Social and global issues. *Proceedings of the 12th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 248-251.
- Nakano, M., Yokota, M., Sumi, A. K., Murao, R., Mcdermott, D., & Ito, S. (2007). Theme-based cross cultural distance learning: (2) Media. *Proceedings of the 12th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 252-255.
- Nakano, M., Sumi, A. K., Murao, R., Yokota, M., Ito, S., & Mcdermot, D. (2007). Theme-based cross cultural distance learning: (3) International carrier path. *Proceedings of the 12th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 256-258.
- Nakano, M., Kondo, Y., Tsubaki, H., & Sagisaka, Y. (2008). Rater training effect in L2 and EFL speech evaluation. CD-ROM, 1-6.
- Nakano, M., et al. (2008). Developing transferrable skills and social intelligence through theme-based cross cultural distance learning 2008 spring semester. *Information Communication Technology Practice & Research 2007*, 191-199.
- Nakano, M. (2008). Cross-cultural distance learning (CCDL) via Internet and the assessment of oral presentation in English. *Proceedings of the 13th Conference of Pan-Pacific Conference of Applied Linguistics*, 16-29.

- Kondo, Y., Tsutsui, E., & Nakano, M. (2008). Fundamental Research on Automatic Speech Evaluation of L2 English. *Proceedings of the 13th Conference of Pan-Pacific Conference of Applied Linguistics*, 91-96.
- Nakano, M., & Yoshida, S. (2008). A pilot study: Exploring a relationship between four kinds of motivation and self-regulations for second language learning among Japanese university students in cross-cultural distance learning contexts. *Proceedings of the 13th Conference of Pan-Pacific Conference of Applied Linguistics*, 97-100.
- Tsutsui, E., Nakano, M., Owada, K., Ano, K., Ueda, N., & Kondo, Y. (2008). Creating an online feedback system: EFL learners' strategy use. *Proceedings of the 13th Conference of Pan-Pacific Conference of Applied Linguistics*, 166-167.
- Tsutsui, E., Owada, O., Kondo, Y., & Nakano, M. (2008). Developing a self-reflection tool for EFL learners: CEFR-based practical communication skills. *Proceedings of the 13th Conference of Pan-Pacific Conference of Applied Linguistics*, 201-202.
- Ueda, N., Tsutsui, E., Kondo, Y., Kodachi, K., & Nakano, M. (2008). How conceptual differences between L1 and L2 can be integrated in the process of L2 vocabulary acquisition. *Proceedings of the 13th Conference of Pan-Pacific Conference of Applied Linguistics*, 217-218.
- Yoshida, S., & Nakano, M. (2008). Assessing social skills among Japanese EFL learners: A pilot study. *Proceedings of the 13th Conference of Pan-Pacific Conference of Applied Linguistics*, 220-223.
- Chiba, E., Ogura, K., Kameyama, W., Nakano, M., Kondo, Y., & Tsutsui, E. (2008). Asia broadband experiment on ontology-based search engine. *Proceedings of the 9th APRU Distance Learning and the Internet Conference--New Directions for Inter-institutional Collaboration: Assessment & Evaluation in Cyber Learning*, 125-132.
- Nakano, M., Yoshida, S., & Owada, K. (2008). Cross-cultural distance learning (CCDL) programs and program assessments. *Proceedings of the 9th APRU Distance Learning and the Internet Conference--New Directions for Inter-institutional Collaboration: Assessment & Evaluation in Cyber Learning*, 189-198.
- Nogami, Y., Nakano, M., Matsuda, H., & Hayashi, N. (2008). An experimental report of web-based test of English communication (WeTEC) and the common European framework of references (CEFR). *Proceedings of the 9th APRU Distance Learning and the Internet Conference--New Directions for Inter-institutional Collaboration: Assessment & Evaluation in Cyber Learning*, 181-187.
- Tsutsui, E., Nakano, M., & Kondo, Y. (2008). A proposal for a new-dimensional online feedback system: Focusing on individual learner differences. *Proceedings of the 9th APRU Distance Learning and the Internet Conference--New Directions for Inter-institutional Collaboration: Assessment & Evaluation in Cyber Learning*, 107-109.
- Tsutsui, E., Kondo, Y., & Nakano, M. (2008). A self-assessment tool for language users in tutorial English based on common European framework of reference. *Proceedings of the 9th APRU Distance Learning and the Internet Conference--New Directions for Inter-institutional Collaboration: Assessment & Evaluation in Cyber Learning*, 171-175.
- Kondo, Y., Nakano, Y., & Tsutsui, E. (2008). Experimental studies on automatic speech evaluation. *Proceedings of the 9th APRU Distance Learning and the Internet Conference--New Directions for Inter-institutional Collaboration: Assessment & Evaluation in Cyber Learning*, 207-212.

- Nakano, M. (2009). Cross-cultural distance learning programs with universities in South East Asia: E-learning to foster a global citizen in Asia. In Anthology Series No. 50, *Language teaching in a multilingual world: Challenges and Opportunities*, 65-83.
- Nakano, M. (2009). Featured speakers: Adult, lifelong & distance education plenary: Local problems and global solutions: Cross cultural distance learning in Asia. *Proceedings of the Asian Conference on Education 2009*, 488-509.
- Kondo, Y., & Nakano, M. (2009). Construction and implementation of automatic L2 speech evaluation system. *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 33-38.
- Nakano, M., & Haraguchi, Y. (2009). Cyber course on World Englishes and ELF: Some tentative evidence. *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 385-392.
- Nakano, M., Negishi, J., Owada, K., Murao, R., Oya, M., Yamazaki, T., Miyasaka, N., & Ueda, N. (2009). Preliminary assessment of cross-cultural distance learning (CCDL) competence using discourse completion tasks (DCT). *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 379-384.
- Nakano, M., Owada, K., Tsutsui, E., & Kondo Y. (2009). English Tutorials, CEFR and ACPA. *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 375-378.
- Nakano, M., Sugiyama, H., Itoh, M., Kondo, Y., & Tsubaki, H. (2009). Lesson review tests and CEFR can-do statements. *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 369-374.
- Murao, R., & Nakano, M. (2009). Towards the assessment of the use of prosodic cues in speech recognition. *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 261-262.
- Ueda, N., Tsutsui, E., Kondo, Y., & Nakano, M. (2009). A case study on developing a vocabulary testing. *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 347-350.
- Sugita, Y., & Nakano, M. (2009). The development and implementation of task-based writing performance assessment for Japanese learners of English: (1) A pilot experiment. *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 423-428.
- Sugita, Y., & Nakano, M. (2009). The development and implementation of task-based writing performance assessment for Japanese learners of English: (2) How to improve rating scales. *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 429-434.
- Sugita, Y., & Nakano, M. (2009). The development and implementation of task-based writing performance assessment for Japanese learners of English: (4) Main experiment 2. *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 435-440.
- Tsutsui, E., Owada, K., Ueda, N., & Nakano, M. (2009). Supporting and assessing L2 learners' self-regulated learning. *Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 479-482.
- Nakano, M. (共著) (2010). *Tutor's handbook tutorial English*. Waseda University International Co.
- Nakano, M. (共著) (2010). Book Chapter. In S. Lu, W. Zhang, & P. Adams (Eds.), *ELT of tertiary level in Asian context: Issues and researches*. Foreign Language Department, Tsinghua University.

- Nakano, M. (共著) (2010). Book Chapter. In L. Lan & D. D. Qian. (Eds.), *English language education in Asian universities: Classroom practices and research issues*. The Hong Kong Polytechnic University.
- Nakano, M., & Tsutsui, E. (2010). Three models of World Englishes and our personal perspective. *JACET-ICT Practice and Research 2009*, 195-210.
- Nakano, M., Negishi, J., Watanabe, A., & Kumaki, H. (2010). A study of requestive strategies using discourse completion tasks (DCT) to investigate cross-cultural distance learning (CCDL) competences. *JACET-ICT Practice and Research 2009*, 85-116.
- Nakano, M. (2010). CEFR-based curriculum development and English tutorials - Transition from secondary to tertiary Education. *The Korea Association of Teachers of English (KATE) 2010 International Conference: Teaching and Learning English as a Global Language: Challenges and Opportunities*, 92-99.
- Nakano, M., Lee, H., & Huang, D. (2010). Asian collaborations at Waseda University: Cross-cultural distance learning. *The Japan Association for Language Education and Technology: The 50th Commemorative Conference National Conference. Conference Proceedings*, 46-58.
- Nakano, M. (2010). Cyber collaborations in East Asia and program assessments: Cross-cultural distance learning (CCDL) programs at Waseda University. *International Conference on Language Education for English for Specific Purpose* 論文集, 1-43.
- Nakano, M. (2010). Pedagogical issues and some solutions by information communication technology (ICT) and recent testing theory (neural test theory: NTT) --- A case study in World Englishes and miscommunication course. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 6-26.
- Nakano, M., Tsutsui, E., & Kondo, Y. (2010). A tentative method of reforming your assessment of English abilities into international standards such as common European framework of reference (CEFR) (2): ELF and Asian Englishes. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 444-449.
- Tsutsui, E., Nakano, M., & Kondo, Y. (2010). A tentative method of reforming your assessment of English abilities into international standards such as common European framework of reference (CEFR) (3): Comparing European and Japanese language users. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 450-453.
- Nakano, M., & Yoshida, S. (2010). A study of CEFR descriptors: Ranking task by English education experts and by university students. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 333-338.
- Yoshida, S., & Nakano, M. (2010). Social skills in English communication: An empirical survey among cross-cultural distance learning (CCDL) participants. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 462-469.
- Yoshida, S., & Nakano, M. (2010). A comparative study of motivation toward cross-cultural distance learning (CCDL) computer mediated communication (CMC) activities. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 454-461.
- Nakano, M., Watanabe, A., & Kumaki, H. (2010). Comparative study of requestive strategies in textual and scripted oral responses using Discourse Completion Tasks (DCTs) to investigate Cross-Cultural Distance

- Learning (CCDL) competences. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 350-357.
- Nakano, M., Watanabe, A., & Kumaki, H. (2010). A study of request performance among Asian users of English: Success and politeness level assessment by Japanese teachers and university students. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 339-346.
- Tsutsui, E., Ueda, N., Owada, K., & Nakano, M. (2010). Survey results on Japanese EFL learners independent learning. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 434-435.
- Owada, K., Tsubaki, H., & Nakano, M. (2010). Verb patterns used in junior high school English textbooks in Japan, a corpus analysis. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 491-494.
- Ueda, N., Tsutsui, E., Kondo, Y., & Nakano, M. (2010). A case study of developing a vocabulary testing: A progressive report. *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 482-485.
- Sugino, N., Yamakawa, K., Nakano, M., Ohba, H., Shimizu, Y., & Shojima, K. (2010). A rank" vs "cluster" conflict: Or, is it just an artifact? *Proceedings of 15th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 418-425.
- Nakano, M. (2010). CEFR-based English tutorials and two validation experiments. In L. Yoffe (Ed.), *The role of European language portfolio (ELP) No. 10* (pp. 27-30).
- Nakano, M. (2010). Pedagogical issues and education network: Cross-cultural distance learning between Tsinghua University and Waseda University. In S. Lu, W. Zhang, & P. Adams (Eds.), *ELT of tertiary level in Asian context: Issues and researches* (pp. 22-31).
- Nakano, M. (2010). Curriculum development and English tutorials - Transition from secondary to tertiary education. In L. Lan & D. D. Qian. (Eds.), *English language education in Asian universities: Classroom practices and research issues* (pp. 128-136).
- Nakano, M., Tsutsui, E., & Kondo, Y. (2010). Bridging a gap between L2 research and classroom practice: (1) English as a Lingua Franca (ELF) in Asia and some assessment based on common European framework of reference for languages (CEFR). *Proceedings of L2WS 2010 (INTERSPEECH 2010 Satellite Workshop on Second Language Studies: Acquisition, Learning, Education and Technology)*, 1-4.
- Kondo, Y., Tsutsui, E., & Nakano, M. (2010). Bridging the gap between L2 research and classroom practice (2): Evaluation of automatic scoring system for L2 speech. *Proceedings of L2WS 2010 (INTERSPEECH 2010 Satellite Workshop on Second Language Studies: Acquisition, Learning, Education and Technology)*, 5-8.
- Tsutsui, E., Kondo, Y., & Nakano, M. (2010). Bridging the gap between L2 research and classroom practice (3) - Online assessment and practical teaching. *Proceedings of L2WS 2010 (INTERSPEECH 2010 Satellite Workshop on Second Language Studies: Acquisition, Learning, Education and Technology)*, 9-12.
- Nakano, M. (2010). Internationalization or globalization in Asia: Issues in English language education. *Proceedings of Asian Conference on Education*, 1-19.

- Nakano, M. (共著) (2011). Book Chapter. In Z. Lu., W. Zhang., & A. Crippen. (Eds.), *Issues in English language teaching and learning at tertiary level*. The Hong Kong Polytechnic University.
- Nakano, M. (2011). Issues on professional mobility in Asia -- Professional mobility as a positive outcome of globalization and internationalization. *Information Communication Technology Practice & Research 2010*, 315-335.
- Kondo, Y., & Nakano, M. (2011). Does vowel quality really matter? *Proceedings of the 16th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 74-79.
- Nakano, M., et al. (2011). A reanalysis: A developmental study of intransitive verbs, transitive verbs, di-transitive verbs and logical subjects in Xcomps among Japanese learners of English based item response theory (IRT) and latent rank theory (LRT). *Proceedings of the 16th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 337-334.
- Nakano, M., & Yoshida, S. (2011). An experimental study of critical reading and writing program: An analysis of pre-task and post-task. *Proceedings of the 16th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 345-352.
- Yoshida, S., & Nakano, M. (2011). A pilot study on the relationship between learning climate in English classroom and students' motivation toward the classroom activities. *Proceedings of the 16th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 357-364.
- Tsutsui, E., Owada, K., Ueda, N., & Nakano, M. (2011). Giving a wide variety support to online ELF learners. *Proceedings of the 16th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 371-374.
- Ueda, N., Owada, K., Tsutsui, E., Kondo, Y., & Nakano, M. (2011). A case study of developing a vocabulary testing (2): A progressive report. *Proceedings of the 16th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 381-384.
- Nakano, M., Nishihori, Y., Tsutsui, E., Kondo, Y., & Oya, M. (2011). Methods of automated feedback systems for reading aloud, individual differences and reflection papers. *Proceedings of The JACET 50th Commemorative International Convention*, 181-188.
- Nakano, M., Owada, K., Ueda, N., Oya, M., Tsutsui, E., & Kondo, Y. (2011). JACET-ICT survey and research committee special symposium: A study of on-line and face-to-face interactions and CEFR-based certificates. *Proceedings of The JACET 50th Commemorative International Convention*, 118-125.
- Nakano, M., Kuroda, M., Jimma, T., & Nagama, H. (2011). A Waseda OCW project: Making use of mobile technologies in discussion tutorial English (DTE). *A paper presented at Asia Regional OpenCourseWare Conference (AROCC) 2011. Printed in Informatics*, 517-521.
- Nakano, M., Mori, H., Inaba, N., & Doi, Y. (2011). Cross-cultural distance learning partner search site for Waseda OpenCourseWare (WOCW). *A paper presented at Asia Regional OpenCourseWare Conference (AROCC) 2011. Printed in Informatics*, 523-529.
- Nakano, M., & Terauchi, H. (2012). CEFR-J descriptors and Japanese learners' self-assessment of their abilities, based on item characteristic curves (ICC). *Paper presented at An International Symposium on the Application of CEFR for English Language Teaching in Japan*, 24-28.
- Nakano, M., Kuroda, M., Jimma, T., Nagama, H., & Taniguchi, K. (2012). The fourth Waseda University JOCW project: Making use of mobile technologies and

- cloud computing. *Cambridge 2012: The Joint Conference of OER 12 and OCW Consortium. Online Proceedings*, 1-21.
- Nakano, M. (2012). Challenges of English language education for both Korea and Japan. *Proceedings of The 22nd MEESO Annual Conference*, 1-15.
- Yoshida, S., & Nakano, M. (2012). Exploration of cross-cultural communication skills in the context of theme-based online discussion. *Proceedings of the 17th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 63-64.
- Nakano, M., Yoshida, S., Oya, M., & Ishii, Y. (2012). A coh-metrix analysis of pre-writing and post-writing: Which of 62 statistical features are relevant to the assessment of expository writing in English? *Proceedings of the 17th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 65-66.
- Tsutsui, E., Owada, K., Ueda, N., & Nakano, M. (2012). Using mobile phones in English reading class. *Proceedings of the 17th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 67-68.
- Nakano, M., & Yoshida, S. (2012). An experimental use of clickers for a large class. *Proceedings of the 17th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 93-94.
- Yoshida, S., & Nakano, M. (2012). L2 learners' motivation for learning English in computer-mediated communication activities. *Proceedings of the 17th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 97-98.
- Ueda, N., Tsutsui, E., Kondo, Y., Owada, K., & Nakano, M. (2012). Constructing a vocabulary test to predict learners' proficiency levels. *Proceedings of the 17th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 85-86.
- Ohba, H., Yamakawa, K., Shimizu, Y., Sugino, N., & Nakano, M. (2012). What can latent rank theory contribute to SLA research? *Proceedings of the 51st JACET International Conference*, 156-163.
- Nakano, M., Kondo, Y., Owada, K., & Ueda, N. (2012). Integrating educational methods and technology: Its effects and evaluation. *Proceedings of the 51st JACET International Conference*, 79-86.
- Owada, K., Yoshida, S., & Nakano, M. (2013). Promoting networking among Asian students in the ELF context: A questionnaire survey of Japanese university students in the cross-cultural distance learning (CCDL) Program. In R. C. Tsai & G. Redmer (Eds), *Language, Culture, and Information Technology* (pp. 33-50). Taiwan: Booksman Books, Ltd.
- Nakano, M. (2013). Networked English language learning from English tutorials to cyber interactions at Waseda University. In R. C. Tsai & G. Redmer (Eds), *Language, Culture, and Information Technology* (pp. 1-32). Taiwan: Booksman Books, Ltd.
- Nakano, M., Kondo, Y., Owada, K., Ueda, N., & Yoshida, S. (2013). English language education as a lingua franca in Asia. *The Asian Conference on Education 2012 Official Conference Proceedings*, 1368-1369.
- Yoshida, S., & Nakano, M. (2013). L2 learners' motivation for learning English in computer-mediated communication activities. *Selected Papers of the 17th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 82-93.
- Sugino, N., Nakano, M., Shimizu, Y., Shojima, K., Yamakawa, K., & Ohba, H. (2013). Calibration of national center test items against the common European framework of reference for languages. *Proceedings of the 18th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, (electric device: 2 pages).

- Nakano, M. (2013). A demonstration of smart-phone application of the Waseda cyber course: World Englishes and miscommunications. *Proceedings of the 18th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, (electric device: 2 pages).
- Matsumura, K., & Nakano, M. (2013). Theory and practice of effective debate class for English learners. *Proceedings of the 18th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, (electric device: 2 pages).
- Yoshida, S., & Nakano, M. (2013). Quantifying the quality of ELF learners' written production with coh-metrix. *Proceedings of the 18th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, (electric device: 2 pages).
- Yoshida, S., & Nakano, M. (2013). A longitudinal study on Japanese university students' motivational styles toward learning English in CMC Activities. *Proceedings of the 18th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, (electric device: 2 pages).
- Enriquez, G., Yoshida, S., & Nakano, M. (2013). Development of an ebook widget suite for critical reading & writing. *Proceedings of the 18th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, (electric device: 2 pages).
- Nakano, M. (2013). My personal perspective: Educational reforms of English language learning at Waseda University. *Proceedings of the 18th International Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, (electric device: 2 pages).
- Nakano, M., Ng, C., Lin, Y., Mak, B., Zhang, Y., Feng, J., Owada, K., Ueda, N., Kondo, Y., Yoshida S., & Maswana, S. (2013). Theories and practices in English as an international language(EIL), world Englishes (WE), English as an lingua franca (ELF) seen in students perception data. *Online Proceedings of the 4th Asian Conference on Education*, 1-18.
- Yoshida, S., & Nakano, M. (2013). Assessing the use of cross-cultural social skills in the context of computer-mediated communication activities. *Information Communication Technology Practice & Research 2012*, 57-65.
- Nakano, M. (2015). Trends and Approaches: Traditional and New Methods from Waseda University Perspectives. The 111th Meeting on Higher Education for the Next Generation. Philippine-Japan International Roundtable Conference on TESOL in Asia. Waterfront Hotel, Cebu City 11月8日
- Nakano, M. (2015). Our Recent Reforms of English Language Education in Japan. 0th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, Korea University, 5th of December. Korea University Proceedings 24-27
- Nakano, M., Aramoto, M., Yoshida, S and Kei, K.. (2015). An Application of Programming Learning Software to Grammar Error Detection Tasks 20th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, Korea University, 6th of December. Korea University p.139-140.
- Nakano, M. and Aramoto, M. (2015). Visualization of Reading Processes Based on Learner Logs (1). 20th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, Korea University, 6th of December. Korea University Proceedings 141-144.
- Nakano, M., Aramoto, M., Kondo, Y., Sato, K., Suko, K. & Hirasawa, S. (2015). Visualization of Reading Processes Based on Learner Logs (2). 20th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, Korea University, 6th of December. Proceedings pp145-148.

- Tsutsui, E., Owada, K. Ueda, N. and Nakano, M. (2015). Technical and Management Issues of Making Flipped Videos: How to Get Started. 20th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, Korea University, 5th of December. Proceedings. Pp71-72.
- Nakano, M. (2016). Challenges of EMI, a case study of 'World Englishes online.' Ed. By Murata, K. *Waseda Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca). Vol. 4.* pp229-235.
- Ng, C., Fox, R. & Nakano, M. (Eds.) (2016). *Reforming learning and teaching in Asia-Pacific universities: Influence of globalised processes.* Springer series of 'Education in the Asia-Pacific Region: Issues, Concerns and Prospects'.